

## 重点5 障害児支援体制の充実

- 近年、発達に課題のある子どもの増加や療育の普及に伴い、療育相談や児童発達支援のニーズが増加しています。地域で安心した生活を送るうえで、さまざまな不安を抱えている子どもやその家庭に対して、適切な支援を行うことが大切です。
- みどりのこども館（ハビット、ウィズ）は、令和2年4月より児童福祉法に基づく市内初の児童発達支援センターになり、「相談部ハビット」と「通園部ウィズ」として一体化しました。センター化に伴い、相談体制の拡充、強化を図り、療育の質の向上と相談支援の充実を図ります。
- ライフステージごとに専門的な支援者が異なることは、支援に切れ目を生じさせる要因ともなり得ます。今後整備予定の新たな相談支援体制「子育て世代包括支援センター」と児童発達支援センター、教育支援センターが連携を図りながら、乳幼児期から学齢期、青年期に至るまで、年代ごとに支援が途切れることがないように、一人ひとりの発達段階に応じた一貫した支援を進めていきます。
- 保育園・幼稚園に通う発達に課題のある乳幼児が増加していることから、保育士・幼稚園教諭等の発達支援に関する認識の共有・スキルアップのための研修等を継続して実施します。
- 放課後等デイサービスについては、整備費補助の効果もあり、事業所が増加しています。事業所間の情報交換や連携を図り、サービスの質の向上を目指します。
- 令和2年12月に桜堤ケアハウス内に肢体不自由児等を対象とした放課後等デイサービスと相談部ハビットのサテライトオフィスが開設します。引き続き、肢体不自由児や重症心身障害児を対象とした事業所の整備促進を図るとともに、相談支援体制のさらなる強化を図ります。
- ペアレントメンター（※）の活用に向けた取組みを推進し、保護者の不安や悩みを解消するための支援を行います。

※ペアレントメンターとは、発達障害児（者）の子育て経験のある親で、その経験を生かし、こどもが発達障害の診断を受けて間もない親などに対し、助言や相談を行う。